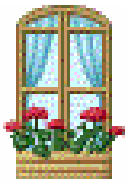


島根の地域医療

第8号 島根県健康福祉部医療対策課 '04 July. 30
e-mail: iryou@pref.shimane.jp
▲いつでもどこでも適切な医療が受けられる島根を目指して▼



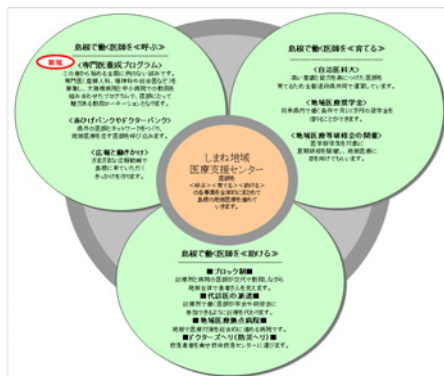
◇しまね地域医療支援センター活動開始

事務局からこんにちは！
本年4月に「しまね地域医療支援センター」を立ち上げてから、早4ヶ月が過ぎようとしています。この間、様々な広報活動や各大学・病院に幾度も足を運びました。地域医療支援機構の木村専任医師も医療対策課にデスクを置き毎日奔走している状況です。

今回はその「しまね地域医療支援センター」の①仕組みと②主な活動状況についてお知らせします。

①仕組みについて

県内で働いていただける医師の確保を進めていくために、島根で働く医師を『呼ぶ』『育てる』『助ける』の3本柱の事業を行っています。



□島根で働く医師を『呼ぶ』事業のなかには新規事業「専門医養成プログラム」があります。

この内容は大規模病院の協力を得ながら、専門診療科(産婦人科、精神科など)と総合診療科の医師を全国から募集するものです。そこでは、県内の大規模病院(県立中央病院、松江赤十字病院、松江市立病院、国立病院機構浜田医療センター、益田赤十字病院)と地域の中小病院での勤務を、ご本人の希望に沿って組み合わせ、医師にとって魅力ある比較的長期の勤務ローテーションとしています。県職員としての身分保障・研究費の交付・国内留学など魅力あるプログラムも用意しています。

残念ながら現在応募者はありませんが、全国から「島根方式」と注目されているこのプログラムの第1号としてぜひご応募ください。

養成プログラムの概念図【別紙 1】、「専門医養成プログラムの募集要項【別紙 2】」をご覧ください。

②主な活動状況について

- ・4月1日島根県知事から島根大学学長、医学部長、附属病院長へ地域医療確保に関する要望を行いました。
 - ・6月19日第1回しまね地域医療の会を開催しました。
 - ・7月14日地域医療支援会議医師確保部会を開催しました。
 - ・赤ひげバンクの登録者は258名となりました。(実績:6名赤ひげ医採用)
 - ・ホームページ、テレビ、新聞等あらゆる媒体を活用して広報・情報提供しています。全国からの問い合わせも多く反響が大きいです。
 - ・臨床研修病院連絡会議の開催を検討しています。
 - ・地域医療奨学金をこれまで2名の医学生さんへ貸与しました。
 - ・医学生地域医療研修を夏休み期間の8月に行います。
- 次回は地域医療研修の様子や島根大学の新たな取り組みなどをお伝えしますので、お楽しみに～。

【しまね地域医療支援センター 坂本】

地域医療最前線その9

新施設完成「益田医師会病院から」

この4月に益田地域医療センター医師会病院のリハビリテーション(以下リハ)部門が総合リハとして新しくなりました。総合リハの基準は建物の面積と専門スタッフの数で決められていますが、医師会病院のリハ室は全面改築され、4階建ての建物の一番上に広さ521.9平方メートル



という広いものになりました。写真のように作業療法室には自宅での生活を想定して畳部屋が作られ、台所では調理実習もできます。リハ室が4階にあることで天井も高く広々としており、何よりも見晴らしがいいのが自慢です。

リハセンターと同時に2階には特殊疾患療養病棟が、3階には回復期リハビリテ

ーション病棟が5月からオープンしました。回復期リハ病棟は脳卒中、下肢骨折などの患者さんが発症後3ヶ月以内に入院してリハを行う病棟です。リハ室ではもちろんのこと、病棟でも専門の看護師、介護士によって日常生活に必要な整容動作、更衣動作、歩行などのリハを行います。動かなくなった手足の動きを取り戻すことはもちろんですが、たとえ障害が残っても残された機能を使って生活できるようにするリハも行います。まだ病棟が始まって1カ月ほどですが障害のある患者さんの状態がみるみる良くなっていくので、スタッフもやりがいがあります。リハ、特に早期リハの重要性を多くの人に知っていただき、早い時期に十分なリハを行い、できるだけ早く自宅に帰って社会生活ができるようになってほしいと思っています。

【益田地域医療センター医師会病院



リハビリテーション科 緒方】

県のドクターバンクから

●求人・求職取扱状況

(平成16年6月30日現在)

<求人> 28件

- 邑智郡(病院)／整形外科、精神科
- 浜田市(病院)／内科
- 飯石郡(病院)／内科
- 出雲市(診療所)／胃腸科、肛門科
- 邑智郡(病院)／内科、整形外科、在宅医療
- 益田市(病院)／精神科
- 隠岐郡(その他)／不問
- 鹿足郡(病院)／内科、外科
- 仁多郡(診療所)／内科
- 出雲市(診療所)／在宅医療
- 那賀郡(診療所)／内科
- 鹿足郡(病院)／放射線科、内科、麻酔科
- 益田市(病院)／内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科
- 松江市(病院)／内科、麻酔科
- 浜田市(病院)／内科、放射線科
- 江津市(病院)／精神科
- 仁多郡(病院)／整形外科、眼科、内科
- 松江市(その他)／不問
- 邑智郡(病院)／泌尿器科、放射線科、産婦人科
- 八束郡(病院)／内科、リハビリテーション
- 松江市(その他)／不問
- 仁多郡(診療所)／内科、小児科
- 大原郡(病院)／麻酔科、精神科
- 出雲市(病院)／内科
- 松江市(その他)／内科
- 浜田市(その他)／内科
- 鹿足郡(病院)／整形外科、内科、リハビリテーション
- 松江市(病院)／内科、整形外科

<求職> 0件

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。
【電話番号】0852-21-8813(専用電話)

【ホームページアドレス】

<http://www.shimane.med.or.jp>

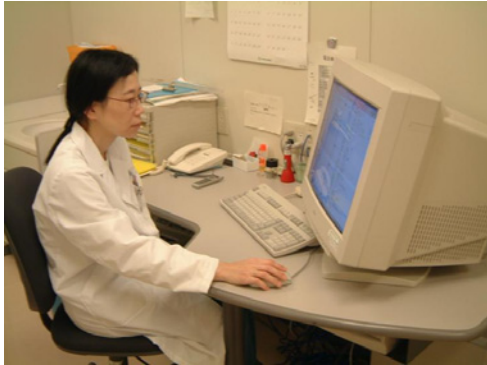
/dcbank.htm

【担当:吉岡・塩田】

◇女性専門外来の開始



平成16年5月6日から島根県立中央病院で、女性専門外来がスタートすることになりました。現在、総合診療科所属の栗岡裕子が本外来を担当させて頂いています。本外来の位置付けについて簡単に報告させて頂きます。



もともと女性と男性では身体の構造、ホルモンの違いがあり、また社会生活も異なるため、病気のメカニズムや治療法にも基本的な違いがあります。つまり、同じ病気に罹患しても症状や薬の作用のしかたが男性と女性では異なるということなのです。これがジェンダー・スペシフィック・メディシンという新しい概念です。つまりジェンダー・スペシフィック・メディシンとは、男女の生物学的性差、社会的な男女の位置付けと相互の関係性、男女それぞれにみられる特有の疾患や病態などの医学的な実証に基づいて行う医療のことです。日本においてこの分野は、アメリカに遅れをとること約10年、過去2年の間に全国に開設された女性専用外来の新設をみとめる形で発達をとげています。2001年5月に鹿児島大学で、同年9月、11月にそれぞれ千葉県立東金病院、東京顕微鏡院 附属診療所で女性専用外来が立ち上げられ、ジェンダー・スペシフィック・メディシン実践の場として機能しています。

いろいろな悩みをもつ女性が病院を利用する際、「女性特有の心配ごとがある」「どの診療科を受診したらよいかかわからない」「男性医師には相談しにくい」などの問題があるため、自覚症状があるにもかかわらず受診が遅れて、結果的に症状を悪化させてしまうことがあります。こうした問題の解決をめざすために、ジェンダー・スペシフィック・メディシンに基づく女性医師による「女性外来」が誕生したので

5月6日、島根県立中央病院でも女性専門外来が始まりました。受診患者様は内科、婦人科、外科、精神

科系の疾患を有する方、second opinionとしての意見を求められる方と幅広く、今後、さらにチーム医療的な対応が必要となるかもしれませんが、現在は他科の先生の御協力を頂き対応させて頂いています。自分の身体が気になる女性が、少しでも安心できるよう診断、加療に努力致しますので気軽に受診して頂けたら喜びます。【県立中央病院 栗岡】

来年度も医師不足深刻



県へ新規派遣40人要望

深刻な医師不足に対応するため、自治体や医療機関でつくる地域医療支援会議の医師確保部会が14日、松江市内で開かれた。来年度の医師派遣の要望は本年度実績を40人上回る71人で、医師不足があらためて浮き彫りになった。

来年度は、県が本年度派遣した31人を確保した上で、▽頓原病院2人、▽雲南総合病院5人、▽邑智病院5人、▽大田市立病院8人、▽益田医師会病院4人など40人を新規に派遣するよう要望があった。

このうち石見町にある邑智病院では、昨年8月に産婦人科の常勤医師が辞職して地域での出産が困難になっている現状を日高昭登町長が訴えた。また、9月から新たに外科の常勤医師1人も減少する見込みという。

県内では、県立中央病院勤務医や島根大学医学部附属病院の勤務医の派遣で、医師不足に対応してきた。しかし、新人医師を対象に始まった新臨床研修制度の影響で、両病院自体が医師確保の必要性に迫られている。

このため、県立中央病院の中川正久病院長は「地元で治療を受けるのが望ましいが、理想論を言っても始まらない。」と指摘がありました。

【山陰中央新報 04.7.15 より抜粋】

◇風にあおかれて



「第1回しまね地域医療の会」を6月19日に県立中央病院において開催しました。

「しまね地域医療の会」は、しまね地域医療支援センターが事務局となり、島根県内の地域医療機関などに勤務する医師で構成し、地域医療研究・研修等の推進、交流・親睦を目的として1年に1回開催します。今回は、自治医科大学地域医療推進課、社団法人地域医療振興協会からも参加していただきました。今岡医療対策課課長から、しまね地域医療支援センター、専門医養成プログラムなどの説明、総務省での「地域医療の確保と自治

体病院のあり方に関する検討委員会」に委員として参加していることの紹介などと



ともに、義務年限明けの自治医大卒業生の県内定着率を上昇させるよう努力するという話がありました。その後、各ブロックからの報告、自治医科大学、社団法人地域医療振興協会からの近況などの報告がありました。また、赤ひげバンクを経て勤務いただいている医師から、1年程度の研修は可能かといった質問(実現できるよう努力するとの返答)など活発な討論がありました。【医療対策課 木村】

None Blue Rose



島根県の大型プロジェクトである「島根県古代出雲歴史博物館」が平成19年春、出雲大社西隣に開館します。▼1984・1985年度に荒神谷で大量の青銅器が発見されたことを契機に、加茂岩倉の銅鐸、出雲大社の巨大柱など、多くの貴重な文化財の出土が相次ぎ、全国の注目を集めました。▼「文化は心の食べ物」といわれる「歴史文化がもつ大きな力」や子供たちのすばらしい感性での感得「地域づくりは人づくりから」が建設理由にあり、島根に生まれ育った自信と誇りにつながると考えられています。▼この博物館のファンクラブも募集されていますが、私たち島根の地域医療ファンクラブは「赤ひげバンク」と考えます。「地域医療を志すのなら島根で！」を合い言葉に、夏バテせず猛暑を乗り切りましょう。 [itaru]

青い薔薇は園芸家の夢。藤紫、明藤色はあっても真の青はないとのことで BlueRose は不可能という意味。NoneBlueRose は私たちの地域医療への熱いメッセージです。



島根県庁医療対策課

しまね地域医療支援センターの連絡先

E-mail : iryou@pref.shimane.jp

TEL : 0852-22-5251

ホームページ[島根の医療] :

<http://www.wah.pref.shimane.jp/med/>

